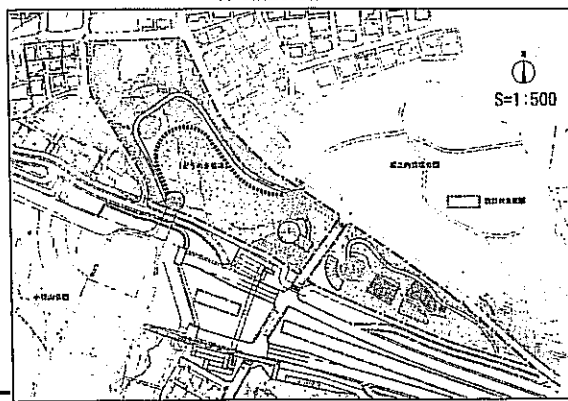


緑のまちあれこれ

- 小塚山トンネル工事は仕上げの段階なのかどうか。トンネルに決めたのは小塚山の緑を保存するための最低限の住民の希望からだったのだが、そのトンネルの理解がまだまだされていないようだ。小塚山に関連して歩道橋の工事が始まり、その橋の名前が問題になっている。教育委員会の人たちは当然知っているはずだが、小塚山の買収費や環境問題、いま問題になっている小塚山の付属公園などについて市議会議員のみなさんはどの程度知っておられるだろうか。地元としてなんともこころもとなく思っている。
- 参議院選挙、十八歳からの投票権が認められ、一方で都知事の不始末で都議会議員選挙がさまざま取りざたされている。いずれにしても野党共闘と市民連合など、どのような結果を示してくれるかが問題だ。イギリスのEU離脱国民投票の結果、世界の経済がどうなってゆくのか不明瞭、時間が解決してくれるのを待っている。いま市川も、ヨーロッパも、北国分も、世界もない。中心になるものは、みんながひとつにつながっているかどうかということだけだ。参議院選挙の結果が、即憲法問題と関わるものでは決してない。野党も与党も議論は未分化のままなのだから。
- 道免き谷津にいま計画されている公園は、本来小塚山が外環で森の一部が破壊され、そこに住む鳥や昆虫を含めた生きものを保護するためのもので、国に売却した金額の一部を当てて造られるものである。かなり以前に住民の声を聞くと云う事で委員会のようなものがつくられたが、いまその公園の概略の青写真が示され、造園にかかることから地元の住民の意見も聞くという。北国分外環対策協議会としての具体案も示していきたいと思っている。



■ 編集後記 ■ 暑い夏がまたやってきました。7月30日に総会があります。みなさんぜひお出かけください。小塚山のさまざまなこと、森の音楽会のこと、小塚山に付属してつくられる公園のこと、これからの北国分のあり方を率直に議論したいと思います。

緑のまち

—北国分だより—



第118号 2016.7.15 発行

編集 北国分外環対策協議会
 市川市北国分 2-29-12 越田方
 Tel 047-372-8936
<http://midori.kuuki.info/>

第46回北国分外環対策協議会 総会

日時 平成28年7月30日(土) 10時~12時
 場所 小塚山研修所 第二会議室(2階和室)

オープニング 緑のまち合唱団のコーラス

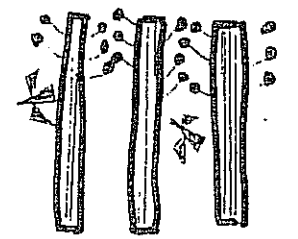
議 事

- 年間活動報告
- 会計報告 会計監査報告
- 新年度活動計画

「緑のまち」発行 (10月 1月 4月 7月)
 パードウオッチングのつどい (11月 2月 4月)
 外環連合会議に参加 (毎月、事務局)

*森の音楽会について

今回初めて秋に開催の予定
 音楽会に対するご意見やご希望をお寄せください



外環道路工事が進み、北国分の街に大きな歩道橋が完成しています。見上げるたびに、あの歩道橋を渡って行けるのかと心配です。小塚山の自然のこと、近くにできる公園のことなど、わからないこと、心配なことなど、みんなで話し合いましょう。ご参加をお待ちしております。

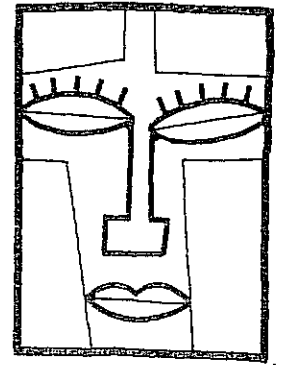
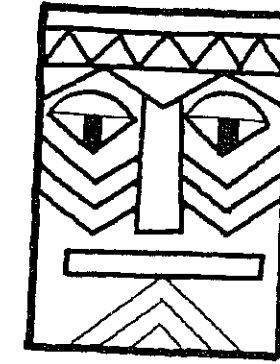
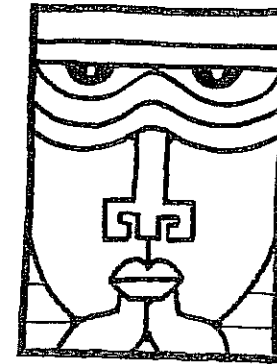
暑さ厳しい季節となりました。私も仕事でここひと月、群馬の方へ行っておりましたが、気候変動や鳥の囀りをはじめとした自然現象からかんがみても「緑のまち」北国分の方が住みやすいような気がいたします。改めて北国分のよさを感じる次第です（外環がなければ…）。

6月に入り皆様もお気づきかと思いますが、北国分第1緑地から第4緑地、小塚山・堀之内と、北国分全域でウグイスがすばらしい囀りを聞かせてくれております。小塚山に来て30年余りですが、今年ほど綺麗な鳴き声をリピートして聞かせてくれた年はないのではと思います。当初私も数羽の上手な雄が各緑地を渡っているのかと思っておりましたが、ウィキペディアによると、繁殖期の初夏に囀るのは縄張り内を見張っている雄で、「ホーホケキョ」が他の鳥に対する縄張り宣言であり、巣にエサを運ぶ雌に対する「縄張り内に危険なし」の合図だそうで、「ケキョケキョケキョ」が、侵入した者や外敵への威嚇であるとされており、これを合図に、雌は自分の安全のためと外敵に巣の位置を知られないようにするためにエサの運搬を中断して身を潜めるそうです。これに関しては今後もっと調べてみたいと思います。

以前、バードウォッチングでお世話になっている村岡先生に、ウグイスはホトトギスの托卵対象になっているとお聞きしました。托卵は、巣作りや抱卵、子育てなどを仮親に託す行為であり、カッコウの仲間がよく知られています。ホトトギスとウグイスでは、容姿がまったく違いますが、卵の大きさや色などの特徴がよく似ていることが致命的のようです。鳥にみる繁殖期の行動は、あらかじめ組み込まれたプログラム通りに進められ、普段なら驚くほどの能力を発揮するように見える小鳥たちですが、予定外のプログラムに対しては想像もつかない無能ぶりを露呈し、ホトトギスはこの盲点をたくみについて繁殖している鳥といえます。決められたプログラムとはいえ、他の子供まで愛情を注いで育てるのですから、虐待で問題になっている人間より立派かも知れません。

ウグイスといえば、「ホーホケキョ」ですが、冬になると地鳴きの「チャッチャツ」「ジュッジュツ」といった感じで鳴いています。北国分でも庭先の垣根や刈り込まれたドウダンツツジの間を「ジュッジュツ」と飛び跳ねているのを観察できます。ですから北国分では一年を通じてウグイスを見る事が出来るのです。冬は小塚山や堀之内の森の下草の茂みでよく鳴いていて、双眼鏡を片手に追いかければ、毎日のように見ることもできます。しかし、近年その下草がなぜか刈られて、ウグイスの居場所が制限されているような気がいたします。

小塚山に飛来した稀少生物の雛もずいぶん成長したようで、無事に巣立って欲しいものです。小塚山トンネル出口の歩道橋には、軽々しくつけて欲しくないネーミングがされております。地元小学生が応募した名前ということになっていて、いかにも地域環境と共生しているふりをしています。私たち緑のまち住民は許可した覚えはありません。外環道完成後の問題は、まだまだ続くと思います。



森の音楽会について

今まで21回続けて開催してきました森の音楽会、小塚山で巣づくりをした稀少種の野鳥を保護するため、昨年はお休みしていました。今年には野鳥に影響の少ない秋に、下記の予定で開催することで準備しています。くわしくは後日、ポスター、ちらしなどでお知らせしますので、よろしくお願ひします。

日 時	10月10日(祝) 午後0時半~2時半
場 所	小塚山 あずまや前
内 容	○ ジャズバンドによる演奏 * 松戸矢切のジャズバンド “シカゴ・デュークス” “のみなさん” ○ 緑のまち合唱団 ○ アンクルンの会の演奏

ヒロシマ原爆を体験して

寺 沢 廣

昭和16年太平洋戦争が始まった時、小学校6年生でした。埼玉にいましたが、その後2年間大阪、それから広島へ移りました。広島では旧制中学生でしたが、戦争で学校での授業はなく、勤労働員で働いていました。軍の食糧を扱う所にいました。食料が乏しい時代でしたが、軍人用の食料はたくさんありました。

原爆の落ちた8月6日は、いつも通り仕事に行くため広島駅近くへ出掛け、そこからトラックに乗って仕事場に向かいました。8時頃トラックが出発したので中心部からは離れていました。8時15分頃トラックが仕事場に到着して、さあこれから仕事を始めようとした時、ものすごい音がして、何か大きな爆弾が落ちたというだけで、しばらくその場で留まりました。責任者の人が「帰れる者は帰ってよいが、帰れなかったらここに戻って来い」と言われ、それぞれ自宅に戻りました。

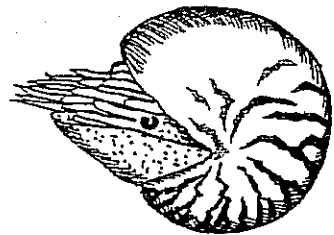
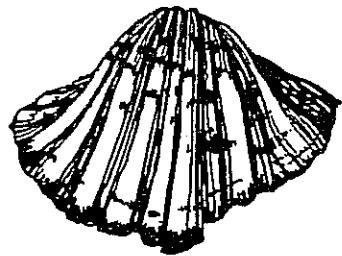
自宅は広島市の端で、その前に山があり、自宅はその影になっていたので何とか無事でしたが、屋根はバラバラ、家の中もめちゃくちゃになって、住める状態ではなかったけれどもなんとかそこで過ごしました。父がガラスの破片などで足を切り、白い包帯をいつまでも巻いていたのを覚えています。家族は無事でした。

食べ物もなく、さつまいものつるなども食べていました。食べ盛りの子どもがたくさんいたので、母は大変だったと思います。

戦後は埼玉に戻り、新制高校に戻りました。ソ連の捕虜になって社会主義の教育を受けて帰った人が先生になって、強い影響を受けました。

戦争は二度とやってはいけないと思っています。

(口述筆記：佐々木)



どこの国の人も子どもも殺さない 殺させない

6・12市民集会に参加して

松 林 マサ子

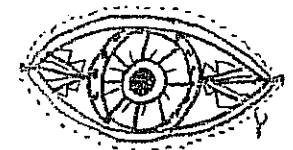
市民と野党の共同で政治を変えようと、「安保法制の廃止を求める6・12市川集会」に行って来ました。

昨年9月6日の集会に引き続き、「戦争させない1000人委員会市川」「9条の会市川」「安保法制に反対する県議3人・市議15人の会」と、個人、市民団体の賛同で実施されました。

意見の違いはひとまずおいて、安保法制の廃止、戦争する国になるのはダメ、の共通の想いで700人が集まりました。6月にしては蒸し暑い日でしたが、集会終了後は元気に本八幡駅と市川駅に分かれてパレードしました。

先の戦争から今日まで日本が戦争をしなかったのは、憲法9条があったからだと思いません。いまその憲法が危うくなっています。戦争は負けた国も勝った国もどちらにも必ず犠牲者が出ます。71年前に終わったあの戦争も、戦地でも国内でもたくさんの死者を出しました。私の母の弟もフィリピンのレイテ島で昭和20年3月17日戦死しました。20歳でした。兄弟姉妹の中でたったひとりの男性で、優しい子だったと、母は言っていました。母が亡くなり荷物を整理していると、茶色の封筒の中に、母の実家から父宛にきた手紙が入っていました。内容は「弟の公報を受け取りました」。戦死の場所と日時が記入されていました。その手紙を、家が変わっても大事にずっと持ち続けていたのです。私たち子どもはその存在を知りませんでした。母は、いつも明るく元気に働き続け、私たちのために毎日忙しく過ごしていましたが、その胸の内の悲しみも聞かずに見送ってしまいました。平和に関心があるのに、とっくに大人になっていて、時間もあったのに、なぜ戦争体験等を聞かなかったのかいまになって後悔しています。母以上に苦しく辛い体験をした人がたくさんいらっしゃいます。その悲しみは、人生を終えるまで絶え間なく続きます。

戦争は絶対ダメです。ひとたび戦争になれば、敵味方なく、両親、兄弟姉妹、夫婦、自分、子ども、孫、友人知人、みんなの命が犠牲になります。集会で若いお母さんが子どもの手を引いている姿を見て、母とダブリ、戦争する国にする安保法制の廃止をこれからも訴えていきたいと、強く思いました。



猛 暑 の 夏

田 口 吉 子

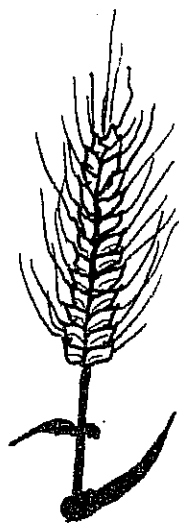
時々SF 小説を読みます。荒唐無稽なものから、人類のこれから、地球の未来について鋭い示唆を与えてくれるものまでいろいろです。

この1世紀の科学の急激な「進歩」は多くの負の影響をもたらしました。温暖化、砂漠化、化学薬品の影響、自然破壊、海洋汚染、放射能汚染……。一つ一つが深刻な状況になってきています。そして今や世界規模での過酷な自然災害に見舞われ始めました。今できることを少しずつでももっと真剣に取り組んでいかななくては手遅れになってしまいます。経済効率を最優先させたやり方を見直すことが求められているのでしょう。

さて、ごくごく身近なことなのですが、私はこのところ年々夏を迎えるのが本当に辛くなってきました。今年も厳しい猛暑だという予報を聞くたびに恐れ慄きます。乗り切れるだろうかと不安になります。というのも実は我が家の立地環境が問題なのです。自宅の南側に広い駐車場があります。100台以上もの車が駐車しているようです。真夏の数か月間、70℃80℃に熱せられた車、焼けたアスファルトの地面の照り返しにより猛烈に暑い熱気に包まれるのです。

屋上緑化、壁面緑化など、少しずつ実験的な取り組みが進められてきているようですが、一定以上の広さのある駐車場は何%か緑化する、地面の構造を変えるなどを、地方自治体の条例等で定め進めていって欲しいものです。ぜひ、補助金などの制度も拡充させてもらいたい。一時的に利用するだけでは実態がわかりませんが、そこでじっと暮らしているとたまたま暑いですよ。都市部の駐車場の環境が変わったら、ヒートアイランドの進行にもいくらかでもブレーキがかかるのではないかと思います。車の構造も熱に対する対策が考えられるようになっていったら……。

1本の木は、酸素をつくり、蒸散作用によって温度を下げます。空気を浄化してくれる緑の木々を手間がかかっても育てていくことの大切さが広がっていったら素晴らしいです。それぞれの風土にあった暮らしを先人は続けてきました。それがいつの間にかどこへ行ってもコンクリートだらけになってしまいました。年々厳しさを増す猛暑。熱中症にならないように工夫しながら乗り切つてゆかなくちゃ！



□バードウォッチング□

日 時： 平成28年4月29日（祝）
 天 候： くもり 時々晴 北風強し
 参加者： 家住 長谷川親子 石居 西山 松原
 鈴木 鈴木 越田 村岡 計10名
 確認された鳥： ハシビロガモ キンクロハジロ アオサギ
 ダイサギ コゲラ オナガ ハシボソガラス
 ハシブトガラス シジュウカラ ツバメ ヒヨドリ
 メジロ スズメ 計13種
 コメント： くもり空が晴れてきましたが、風が強く、新緑の樹冠が大きくゆれておりました。鳥は少なかったのですが、キンラン、ギンランの咲く林内を皆で楽しく歩きました。（村岡）



「介護保険制度」について（つづき）

菅 野 順 子

前号につづき「介護保険」のしくみをご紹介します。各自治体では「総合事業」が始まっています。“え！それはなんですか”始めて耳にする方もいらっしゃると思いますが、制度は「要介護」「要支援」ほかに「介護予防・日常生活支援総合事業」（総合事業）が平成27年4月より準備の整った自治体から始まっています。市川市は、昨年10月より“高齢者サポートセンター”が市内15か所に設置され、「より地域に密着した高齢者を支える事業所」として展開されています。

北国分のこの地域でも十数年前より民生委員さんを中心に、ボランティアの方々が定期的に“高齢者のつどい”を開いていると聞いて、3月と4月、そのつどいに参加させていただきました。場所は風の谷保育園、月1回、土曜日の午後1時と3時。参加者対象は65歳以上の男女20名程。内容は月によって違いますが、歌やゲーム、折り紙製作、紙芝居、口腕体操、簡単な勉強会など。お茶タイムもあり、楽しい交流の場になってきているとのことでした。スタッフの方より“会場が保育園であるため、軽い体操や運動ができない、コミュニケーションの内容が限られる、この地域にも西部公民館のような施設がほしい、人数が増えるとこの会場で継続は厳しい”と意見を伺って来ました。福祉とは、〈ふ〉だんの〈く〉らしを〈し〉あわせに。最近読んだ本に書いてあったことばです。